地獄八景亡者の戯れ外伝

虎波男女子★彡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

地獄八景亡者の戯れ外伝

【Ｎコード】

Ｎ０８５４Ｄ

【作者名】

虎波男女子★彡

【あらすじ】

どなたも一度は行かなならん地獄のお話でございます。ｍｉｘｉの日記に書き続けてきたもののＵＰですが、地獄の閻魔庁における閻魔大王のお裁きの様子を、時事ネタを含めて再編集しました。

第０話

色々な意味で地獄って言葉を使います。どういうわけかアダルトビデオには地獄とは関係あるとは思いにくいんですけど、それでも「地獄なんたら～～」「なんたら地獄の責め」とかいう作品が多数あります。

それとは関係なくどなたも地獄へは一旦いかなあかんようで・・・で始まりますのが、人間国宝桂米朝師匠の「地獄八景亡者の戯れ」でございます。ご存知の方はご存知かと思いますが、ＣＤだと１枚丸々、カセットですと表裏使って・・・というとても長い作品でございます。それでもまだまだ多くの人間が行って帰って・・・、あまり直ぐに帰ってきた人は居られないようですが、あれだけ多くの人が行く地獄には、もっと多くのドラマがあるんじゃなかろうか・・・というわけで「地獄八景亡者の戯れ」の外伝ならよかろうってことでこのたびＵＰすることにしました。

さて地獄の描き方も様々でございます。「地獄八景亡者の戯れ」のお話の世界に準拠ということになるでしょうか、地獄の住人は大阪言葉で会話しております。ただ閻魔大王だけはいわゆる殿様のような喋り方をしています。

鬼も定番の赤鬼・青鬼に加え黄色鬼・桃鬼・緑鬼・紫鬼・燈色鬼・空色鬼・・・これで虹色がそろいましたでしょうか。さらに金鬼・銀鬼・白鬼・發鬼・中鬼・・・てなんでこんな鬼がおるんや??といったところですね。

そうそう金銀パールプレゼントの鬼がいるんです。女性の鬼で閻魔大王の秘書役を務めています。当初はＫ－１が好きな女性タレントに似せるつもりでしたが、関西にも素敵なキャラがいるってことで、「ぽよよ～～ん」の女性漫才師に似せています。桃太郎伝説にも同じ名前のキャラがいますが、名前が似ているだけで全然違うキ

ャラということで。

金銀パールプレゼントの鬼に地獄を案内してもらいましょう。

金銀「は～～い、金銀パールプレゼントの鬼ちゃんですう。ぽよよ～～～ん。」

あの～～、ぽよよ～～～んはええから案内のほうを。

金銀「そうですね。ではご案内します。」

たのみますよ。

金銀「皆様お亡くなりになれば取り急ぎは地獄界にお越しいただくことになります。三途の川までの道を歩いていただいてから閻魔大王様のお裁きまでの日日が４９日と定められていましたが、最近は地獄も書類をオンライン処理するようになって３５日でお裁きとなります。」

今はほとんど３５日ですものね。

金銀「娑婆の皆様もあまりお待ちいただけないようで、地獄もスピードアップするようにかいぜんしましたぁ。」

どなたも地獄へは一旦いかないといけないんですか??

金銀「はい、凶悪な犯罪を犯した方以外は、転生するための時間を過ごして頂く場所なんですよ。でも残念ながら八熱八寒地獄ツアーに参加していただかないと都合の悪いお方も多いですけどね。」

う～～ん、八熱八寒地獄ツアーすることになるのかしら??

金銀「そんなこともないですよ。なにか一つでも良いことをされてれば極楽へいけますぉ。」

へ～～そんなものですか??

金銀「ですから安心して地獄へお出でくださいませ。」

あんまり行きたくもないんですが～～。

というわけで（どんな訳や）しばらく連載が続きます。

第1話　S・R編

元ＩＴ社会長のＳ・Ｒ氏死去…元大本営参謀、臨調委員も（読売新聞　－　０９月０４日　０３：２２）・・・という記事から第一話をこしらえました。

ここは地獄の閻魔庁～～～。
閻魔「Ｓ・Ｒやら面をあげい！！ん？？大往生ゆえに身体が動きにくいとみえるな。赤鬼・青鬼起こしてやれ。」
赤鬼「恐れながら申し上げます。」
閻魔「どうした申せ？？」
赤鬼「こんなヨボヨボの爺さん、わしらが触っただけでガタガタになりまっせ。いくらなんでも未決の亡者の身体を潰してはあきまへん。」
閻魔「そうであったな。ならば裁きに受け答えできるように一時若返らせるとするか。呪文を唱える。んやらばんやたりはまくりはま！！！！！」
青鬼「そんな呪文がおますんかいな」
閻魔「閻魔にできぬのは、自らが人間界に生き返ることだけじゃ。おお、Ｓ・Ｒとやらが起きたな。」
Ｓ・Ｒ「てんの～へ～かに、けいれー！！」
閻魔「なんとわしは閻魔である・・・って敬礼しよるがな」
Ｓ・Ｒ「諸君！大東亜戦争は自存自衛の戦争であ～る。」
閻魔「今度は演説？？？Ｓ・Ｒ、ちゃんとわしの裁きを受けよ。」
Ｓ・Ｒ「まったく根拠のない虚構であ～る。」
金銀パールプレゼントの鬼「大王様申し上げます。」
閻魔「いかがいたした？？」
金銀「先ほどの呪文は間違っております。」
閻魔「そんなはずは・・・・ふむふむ？？しまった。」

赤鬼「どないしましてん??」
閻魔「先ほどのはイボ痔の治療の呪文であった。」
鬼一同「（どてっ!!）」
閻魔「では呪文をかけなおす。らぶかたりはまくりはまらぶあ」
S・R「ほんぎゃ〜〜ほんぎゃ〜〜」
青鬼「今度は赤ん坊の泣き声になりましたで」
閻魔「これは??? 水虫の治療の呪文であった。ふむふむ??今は単にべほいみでいいのか。」
金銀「大王様申し上げます。」
閻魔「申せ、金銀パールプレゼントの鬼。」
金銀「単に呪文の間違いではなく、肝心なことを聞くと話を本質からそらす軍官僚の体質によるものでしょう。しかし１９５７年、ロッキード、グラマン採用論争のおり、旧帝国陸軍のＭ・Ｇあたりと画策していたとのタレコミもあります。」
閻魔「こうなったらショックを与えないといかんなぁ。仕方ないから人間界に転生させてることにするか。赤鬼、三途の川の船頭に申し付けて次の便で人間界に送り返せ。」
赤鬼「はは〜〜〜。」
閻魔「これだと、ヤスとかいうバーコード頭の召喚も早めないといかんな。」

Ｓ・Ｒが気がつきますと、墓の前ではなく電車の一番前に乗っていました。なぜか電車はものすごい勢いで走っています。福知山線塚口駅と尼崎駅の間・・・２００５年４月２７日９時１７分に転生してしまいました。

続きは・・・２００８年にはタイムマシンができると『ドラえもん』に書かれていますので、タイムマシンの完成を待つことにします。

第2話　紙資源編

今回も地獄でのお話を語らせていただきます。
人間国宝の桂米朝師匠のように、噺の途中であの世に行くんじゃないか・・・というほど長い噺にはとうていかないませんが、まずは一席・・・・・。

ここは地獄の閻魔庁。
閻魔が調べ物をしているところへ、赤鬼が血相変えて・・・と言いましても赤鬼の青い顔もおますんでっしゃろか??
赤鬼「大王様申し上げます～～～～～～！！」
閻魔「赤鬼か。大慌てで何が起きた???M・Oの件か??あれは、地獄でも市民活動をしたいとのことで、それなら頑張ってみろ・・・ということで六道の辻に放っておいたが、別に悪くはなかろう??」
赤鬼「それちゃいますねん。」
閻魔「Y・Aの件か、芸能町で作詞活動をしたい・・・とのことで、好きなだけ書いてみろということで放っておるが」
赤鬼「ちゃいますねん。紙がおまへんねん。」
閻魔「地獄に神はなかなかおらぬが」
赤鬼「神やのうて紙ですわ。ペーパー」
閻魔「またどうしたことじゃ??」
赤鬼「トイレットペーパーとかは普通の消費量なんですが、紙の橋は壊れまくるし、この世でえげつないことして地獄へきよるやつがおおくて、罪状を作るんもえらい紙がいりますねん。たまったもんやおまへんねん。
閻魔「言うではないか、神の御心のままに・・・」
赤鬼「駄洒落言うてる場合ちゃいますねん。大王さま自ら御対策を！！！！」

閻魔「よし、作戦を実行するぞ。赤鬼よく聞け！！！。」

数日後六道の辻にお触れがでました。

甲「なんのおふれでっしゃろ？」

乙「諸物価値上がりのエンフレにより、手数料の値上げとかちゃいますか？？」

甲「それも言うならインフレでっせ。」

乙「どっちでもええですがな、なんか開拓団募集やそうですな。」

甲「働きに応じて罪を免ずるとのことでっせ。念仏屋で高い念仏を買わんでも、極楽へ通してもらえるみたいですわ。」

荒れた地獄を開拓して植樹を行う・・・という閻魔の作戦のようです。ワンルームの宿舎に3食地獄ホテルのシェフの賄いつき、週40時間労働の週休二日制。サービス残業は厳禁。休暇・社会保障完備・・・ってことは、この世のほうが地獄のような環境で働かされているんでしょうか？？

たくさんの応募者があって、大開拓団が地獄の荒地を耕して、植樹して、閻魔の呪文で見ている間に苗木が大木になっていきました。この世では林業はなかなか儲かる仕事でもないんですが、地獄ではさかさまなんでしょうかね。

でも地獄を埋め尽くしている、ある新興宗教の一派からはだれも応募がありませんでした。

「わしらは神はいらん・・」からだそうです。

第3話　五月蠅い編

ここは地獄の閻魔庁・・・って何回もやっていますが、今回の裁きはいつもと違うようです。

閻魔「これより裁きを始める。一同のもの静粛にいたせ」

しかし亡者たちは大声でおしゃべりしたり、騒いだり、へっぽこ演説したり・・・と五月蠅くなる一方。

閻魔「静粛にいたせというのがわからんのか??」

ますます五月蠅くなる一方であります。

閻魔「静かにしない亡者ども、しまいには呪文を唱ええるぞ。んやらばんやたりはまくりはま!!!!!」

赤鬼「それはイボ痔の治療でっせ。」

閻魔「そうだった、らぶかたりはまくりはまらぶあ」

青鬼「それは水虫治療の呪文ですがな。」

閻魔「そうであった。ではギガデイン!!」

閻魔はギガデインの呪文を唱えた。

雷雲が発生して電撃!!

しかし威嚇攻撃だったので、音だけが鳴り響いた。

一瞬静かになったものの、亡者の群れは騒々しい。

閻魔「しからばパルプンテ!!」

閻魔はパルプンテの呪文を唱えた。

呪文だけがこだまになって響いた。

閻魔「え～～い、呪文を損したわい。ではティルトウェイト・・・」

赤鬼「大王様、ティルトウェイトはおやめになってください。」

青鬼「前にティルトウェイトをかけたときに、後始末が大変でしたがな。」

閻魔「そうであった。そのときの閻魔庁庁舎の修理代が高くついたものよのう。」

赤鬼「それに、今回の亡者どもはそこまでの呪文を使う値打ちおまへんねん。」

閻魔「ふむふむ、５０歳女、岩盤浴温泉でリラックスルームで他人の迷惑を顧みず大声でしゃべる。注意した女性に対し「静かにしろってどこに書いてあるの??」と逆切れ。その後自宅の風呂場で石鹸で足を滑らせて死亡・・・なんじゃこれは」

青鬼「今回の亡者は五月蠅いのばかりあつまりましてん。」

閻魔「しかし今回の亡者どもの行い、娑婆の法廷における法廷侮辱罪に相当する。騒いだもの勝ちは許さん。よって全員八熱八寒地獄フルコースじゃ！！！」

赤鬼「大王様申し上げます。」

閻魔「いかがいたした?赤鬼。」

赤鬼「このあいだの五月蠅い亡者どもにはお手上げですわ。」

閻魔「ほう、亡者どもがいかがいたした。」

赤鬼「あいかわらず騒々しいさかい、お仕置きする鬼どもが気が散って仕事になりまへんねん。」

閻魔「娑婆の言葉も間違いなのだろうか??」

赤鬼「どのような言葉で??」

閻魔「死人に口なし」

第４話　Ａ・Ｍ編

別にセクト的に腹立つからではないですけど、こいつは地獄でお仕置きを受けるべき人物なので、地獄に召喚することにしました。

ここは地獄の閻魔庁・・・・って何回やったかな？？

閻魔大王が相変わらず怖い顔でお裁きに臨みます。人間国宝桂米朝師匠によれば、閻魔大王の顔を真似るとなかなか元に戻らないらしいんですが。

閻魔「Ａ・ＭＪＲ総連元特別顧問（７１）とやら、表をあげい！！。」

Ａ・Ｍ「あの～～、私まだ死んでいないんですけど。」

閻魔「それは重々りかいしておる。しかし主には様々な悪行がある ゆえに早期召喚した次第じゃ。」

Ａ・Ｍ「私は悪いことはしていません。」

閻魔「そうかな、主が執行委員長だった動労で、闘うべき時期に敵前逃亡して、末端の組合員を路頭に迷わせた罪断じて許しからず。」

Ａ・Ｍ「それは社会情勢からして・・・」

閻魔「黙れ！！、そもそも総評所属の組合でありながら、自民党議員の選挙運動に加わりし罪も許しがたい。主のせいで今の雇用不安をもたらした罪もあるぞよ。」

Ａ・Ｍ「動労のような小さな労働組合に言われましても。」

閻魔「右翼的であったがまだましな国労の組織を破壊した罪もあるぞ。

元副委員長ら３人と共謀、００年４月、ハワイにリゾートマンションを購入するために、ＪＲ総連が設立した「国際交流基金」の預金口座などから約３０００万円を引き出し着服した疑いとあるが、全然末端の組合員のことを考えていないではないか。」

Ａ・Ｍ「だって現場の組合員はバカですぞ、バカから金を掠め取って何が悪いんですか。」
閻魔「主には人権を守るという概念もないようだな。」
Ａ・Ｍ「守っても金になりません。」
閻魔「そのようなことでは、主の子分であった国労大阪支部書記長の中村も地獄で悔し涙で一杯だろうな。主のセクトの影響で就寝中に殺されたのだからな。」
Ａ・Ｍ「そんなことを私に言われても」
閻魔「そもそも、装甲車並みの装備の車で移動し、ボディガードを常に配置していた主は、そうとう疾しいものがあったんだろう。」
Ａ・Ｍ「そのようなことはございません。」
閻魔「黙れ！！、主は前倒しで地獄行きじゃ。」

というわけで、Ａ・Ｍは地獄に落ちました。

金銀パールプレゼントの鬼が閻魔に尋ねます。
金銀「で、Ａ・Ｍはどうなったんですかぁ？？」
閻魔「地獄鉄道の機関車の前を走らせるお仕置きに処した。鉄道関連の奴ゆえにふさわしかろう。地獄鉄道はさほど速い速度で走っていないのだが、走らないことには機関車に轢かれるのだった。これで末端組合員の怨みも少しは晴らされるかもしれないな。」

でも、ＪＲ東日本に乗せてくれなくなるかも（＾＾；。

第5話　地獄の防災訓練編

ここは地獄の閻魔庁

今日は日曜日なので閻魔庁もお休み・・・のはずですが。

閻魔「金銀パールプレゼントの鬼、金銀パールプレゼントの鬼はおらぬか??」

現れましたるは“ぽよよ〜〜ん”でおなじみの女性漫才師に似た女鬼の金銀パールプレゼントの鬼。

金銀「大王様お呼びでしょうか??」

閻魔「娑婆では防災訓練が行われているという。この地獄でも災難がおきんとも限らん。よって防災訓練を行う。」

金銀「失礼ですが大王様」

閻魔「どうした、申せ。」

金銀「亡者にとっては、地獄に落ちることが災難かと。」

閻魔「そうじゃな、亡者にも参加特典があるといいのぉ」

といったわけで、六道の辻にお触書が出ました。

亡者A「なに??地獄防災訓練やて??そんなもん地獄に居ること自体が災難・・・・でもないな、これ??」

亡者B「極楽へのマイルポイントを加算やて、とくに積極的に参加したるものにはポイント追加やて」

娑婆でのマイル制度に倣って、地獄にもマイル制度がございます。マイルが満点になりますと、多少の罪があろうと極楽から飛行機で迎えに来てくれるそうです。

赤鬼「今日は休みやと思ったら、大王の気まぐれで休日出勤やで。」
青鬼「ほんま、地獄自体が毎日災害で持っているようなものやがな。」
大王「何を言うか、亡者共が被害にあって生き返ってもらっても困るし、鬼の諸君が被害に遭わないためにも訓練は必要なのだ。」
赤鬼「でも、わてらは多少のことでは擦り傷もおまへんで。」
青鬼「どんな設定で防災訓練をしますんや??」
大王「閻魔庁で多数の亡者がお裁きを待つ間に、火の車が閻魔庁の屋根に衝突した・・・という設定だが。」
赤鬼「そんなことせいでも、閻魔庁自体が火の車や。」

第6話　ペット火葬の悪質業者編

ペットブーム便乗の悪質業者横行　数十万円の請求もということで、飼い主につけこんだ悪い輩がいるものでございます。閻金業者かその予備軍あたりの仕業でしょうね。

というわけで、ここは地獄の閻魔庁～～～。

今日は閻魔大王はお休み・・・昨日冥途の北新地にありますクラブ「羅生門」とカラオケボックス「般若心経」で飲みまくって、今日は二日酔い状態のようであります。

「大王様！！！一大事であります。」
と秘書の金銀パールプレゼントの鬼が飛び込んできました。
閻魔「う～～ん、わしゃもう飲めんぞ～～。」
金銀「何をおっしゃる。娑婆にて事件でございます。
ペット火葬の悪質業者が横行しているとのこと。これは一大事でございます。」
閻魔「生焼けで返されてもこまるなぁ＞遺体。」
金銀「御意。実に人の足元を見た卑劣な犯行にございます。」
閻魔「大井川の渡しやないねんから、巨額な支払いを要求するとは実に不埒な輩であるな。地獄ネットから娑婆のインターネットに接続して、不埒な輩の情報はわからぬのか??」
金銀「それが、Ｗｅｂを消したのか当該する金額の火葬料を取るところは見当たりませんでした。人間の葬式は駅ごとに1軒は葬儀業者がありますが、ペットの葬儀業者はそんなに多くないですものね。」
閻魔「奴らも海千山千だからのう。いずれ地獄に参りしときにはしかるべき仕置きをせねばならぬのう。」

でここからは娑婆です。
ペット火葬の悪質業者社長である箱根山雲助の家で不幸がありました。
箱根山雲助が葬儀業者（もちろん人間の）を捕まえて脅しています。
「なに、なんでこんなに高いねん。こんなに高かったら犬猫の生焼けの死体をおまえとこの店の前に置いて、商売できんようにしたるぞ！！」
横にいたのは町内会の班長で葬儀委員長のうどん屋の大将。
「社長、そんなに高いこともおまへんで。それにそのように言われては、社長が臭い飯を食うことになりまっせ。」
「なに、わしゃ闇金でも振り込め詐欺でも逃げおおせているわい。」

「そこまで言いまっか。かかぁ、今の聞いたな。」
「はいたしかに。」
悪質業者社長箱根山雲助の手首に手錠がガシャリ！！
「わたいなぁうどん屋ですねんけど、かかぁは警部してますねん。コロンボはんとこの逆ですわ。ちゃんと録音もしましたさかい、これから警察まで行っとくはなれ。」
悪質業者社長箱根山雲助が一言「あ〜〜、一杯食わされてもうた」。

第7話　ガードレール編

町道のガードレール１８６ｍ盗難・・・という事件がありました。その話題から今回のお話を進めることにしますね。

ここは地獄の閻魔庁

閻魔大王の昼寝中に、金銀パールプレゼントの鬼が駆け込んできました。

金銀「大王様。一大事でございます。」
閻魔「ふぁ～～。何事じゃ、ここんとこひっきりなしに罪人がくるので非常に眠たいのだが。」
金銀「京都府宇治田原町奥山田の町道で、ガードレールが１８６メートルにわたって盗まれていたんだそうです。」
閻魔「なに、２～３本ならともかく。１８６メートルともなるとトラックに載せるのも相当な重量になるはずじゃ。」
金銀「娑婆に在住する鬼の仕業でしょうか。」
閻魔「鬼の力をもってすれば、瞬時に盗みをすることもできようぞ。不況ゆえに、娑婆のほうでは苦しいみたいじゃのう。このあいだも地獄へ落ちた亡者が、娑婆のほうがもっと苦しいと言っておったが。」
金銀「えらい世の中ですわね。」
閻魔「でも実際には鬼は人の心の中にいるものなのだ。」
金銀「今回の落ちは？？？」
閻魔「では座興をひとつ。

落ちてます♪あ～～こりゃこりゃ♪落ちてましてよ♪
ガードレールが１８６ｍ落ちてます。あ～～こりゃこりゃ♪

拾ってみたら♪ぎっくり腰になってもた♪♪

どうじゃ。落ちになっただろう??」

金銀「今ひとつのうえに、大王様が踊られると閻魔庁宮殿も揺れるんですけど。なにせ古くなってガタガタなんですから。」

閻魔「こりゃ、ガードレールかなんか金属で補強しないとダメかのう。」

第8話　食品賞味期限偽装編

ここは地獄の閻魔庁。今日は鬼さんたちの控え室です。

「きゃ～～～～～～」と絹を裂くような悲鳴を上げながら、金銀パールプレゼントの鬼が飛び込んできて、青鬼にしがみついてしまいました。

赤鬼「なんや、青鬼。金銀パールちゃんがしがみついて、顔が赤くなっているやないか。なんか赤鬼になっているで。」

金銀「何をいっているのよ、もう！！」

金銀パールの鬼は赤鬼を蹴飛ばした、２５６ポイントのダメージ

青鬼「おい、赤鬼。今度は赤鬼がのびて青くなったがな。」

緑鬼「金銀パールちゃん。どないしたんや？？今ので赤鬼と青鬼が入れ違ってもうたがな。ほんまに落語の“死ぬなら今”やがな。」

金銀「ごめんなさい。今大王様がご立腹なの。で、逃げてきたんです。」

緑鬼「大王様はあまり怒らんねんけど、金銀パールちゃんなんかやらかしたんか？？」

金銀「ちがうの。最近食品関連の偽装が多いから、責任者全部地獄に落とすっていうんです。」

緑鬼「そやな、娑婆ではエライ問題になっているらしいな。」

金銀「特に赤福とお福のことで、ご立腹されているの」

緑鬼「なんでやねん？？」

金銀「あのお餅が、大王様の好物なんですって。」

緑鬼「さよか、大王はん甘党やねんな。」

金銀「ちなみに、作者の虎波みなこ★彡は修学旅行でお福を買ったほうのくちなんですって。修学旅行で同級生相手にＨしたらしいけど。」

緑鬼「って、やたら作者が登場するのは、虎波みなこ★彡もねた切れなんかいな。」
金銀「で、これを機会に食品偽装している関係者を地獄に落とすんだそうです。」
緑鬼「そりゃ、大王はんも無茶や。」
金銀「あら??どうして」
緑鬼「そんなことしてみ、地獄が定員オーバーになるで。ましてや日本だけやのうて、中国の亡者も入れてみい、わしら労働強化やがな」
金銀「目の前で作っているものしか、確かでない世の中なんやね。」

緑鬼「それはともかく、赤鬼と青鬼入れ替わっているで、なんとかしたり」
金銀「あら、ごめんなさい」
　金銀パールプレゼントの鬼は、赤鬼と青鬼のほほにキスした。
　赤鬼は赤色に、青鬼は青色に戻った。
緑鬼「わしもしてほしいなぁ」
金銀「いいわよ。Ｃｈｕ！！」
　緑鬼はそのままの色で倒れた。

第9話　虎波みなこ★彡編

ここはあいかわらず地獄の閻魔庁。

今日は閻魔大王はお裁きではなく、調べ物のようで。

閻魔「金銀パールプレゼントの鬼はおらぬか??」
金銀「金銀パールプレゼントの鬼はここに。でも大王様、大概長い名前でっせ>わたいの名前」
閻魔「そういうふざけた名前を考えよるのも、虎波みなこ★彡とかいう奴の仕業じゃ。」
金銀「一発で名前を覚えて・・・もろてもしやぁないんですが。」
閻魔「まあいずれ地獄の底が抜けるほど責苦にあわさんといかんな。主を呼んだのは他でもない。火の車じゃが地獄に無いのではないか??」
金銀「恐れながら申し上げます。娑婆が不景気のため火の車が娑婆で回っております。」
閻魔「以前は落語家の家しかなかったのにのう。」
金銀「いえいえ、不景気でどうしようもなく。娑婆のあちこちで火の車が回る始末。いくら増産しても間に合いませんねん。」
閻魔「何台か帰ってきておるようだが。」
金銀「それが娑婆で回りすぎて、修理せんことには使い物になりませんねん。」
閻魔「困ったものじゃ、1台ぐらいなら残っておるじゃろ??」
金銀「いちおう1台修理が終わりましたが。」
閻魔「主にふざけた名前をつけた、虎波みなこ★彡のところへ送りつけてやれ。」
金銀「はは〜〜〜。」

というわけで、虎波みなこ★彡の家に火の車が派遣されました。

金銀「でも、大王様。わてらが地獄で使う火の車はありませんで。」

閻魔「また、バブルでもおこさないと駄目かのう。」

火の車を送りつけられた虎波みなこ★彡の住むニャンコの家では。

聖菜子「暑いよぉ〜〜〜。クーラー壊れたんかいな。お金がないよぉ。給料日まで屁こいて寝とかないあかんなぁ」

８話ぐらいには作者が登場するというお約束もあるようで、十分に火の車の効果があった今年の夏のお話でございました。

第１０話　Ｔ・Ｆ編

ここは地獄の閻魔庁・・・。って２１回目ですね。

今日は閻魔大王のお裁きの合間であります。

赤鬼「ちょっと大王様」
閻魔「いかがした。申せ??」
赤鬼「なんかお裁きのあるときって、政治家とか財界人が死んだときにやっていまへんかいな??」
閻魔「そういわれたらそうじゃな。単に作者たる虎波みなこ★彡の好みのようだが」
赤鬼「でも作者の好みでお裁きしてたら、あかんのとちゃいます??」
閻魔「いや、別の作品ではわしはひっきりなしで罪人を裁いているらしい。虎波みなこ★彡が書かないだけであって、わしは忙しいほど仕事をしているのだ」
赤鬼「今日は、元官房長官　Ｔ・Ｆはんでっせ」
閻魔「ふむふむ代議士を１１回もしておるのか。Ｍ・Ｏ内閣で労相、Ｙ・Ｎ内閣で官房長官か・・・リクルートのときにはＴ・Ｆ氏のみ有罪になってしまったのう。同じようなことしている奴は他にもいたのだが。」
赤鬼「Ｙ・Ｎ内閣で官房長官を務めていた８５年８月、自らの私的諮問機関「閣僚の靖国神社参拝問題に関する懇談会」（靖国懇）が「政教分離原則に抵触しない方法による公式参拝の途があり得る」とし、同月１５日のＹ・Ｎ首相（当時）の公式参拝に道を開いた・・んやそうです。」
閻魔「実に長い文章を間違いなく言えるものじゃのう」
赤鬼「大王様かてそうですがな。」

閻魔「最近、かっとあんどぺーすとの技が使えるようになってのう。」
赤鬼「まだＴ・Ｆはん来まへんけど、どないしますねん。」
閻魔「靖国の問題はＴ・Ｆ氏にも責任はあろう。やたら命の大安売りをしたのが太平洋戦争であり、総括しないままま新しい戦争への道を開く・・・、実際に戦争の現場に出ないまでも、労使関係が軍隊のような関係になっている現実がある。これは彼にも責任はあるだろう。」
赤鬼「今日はまたいつもと違うような。」
閻魔「今日も沢山の亡者が来ている。しかも娑婆でいうところの弁護士を頼むに相当する念仏すら買えない亡者共が多数を占めている。実際に戦争になったときに真っ先に死ぬのは、貧しき亡者共の子孫たちなのだ。我々は亡者の裁きをするが、亡者が増えることを推進するわけでない。」
赤鬼「大王様、今日はいつもとちゃいますな。」
閻魔「うむ、虎波みなこ★彡が相当酔っ払ってこの文章を書いておる。」
赤鬼他多数の鬼「（どて！！！！）」

第１１話　禁固４万年編

２００７年１１月０１日にスペイン列車爆破で禁固４万年・・・というお裁きが娑婆であったようで、そのお話を綴っていくことにします。

ここは地獄の閻魔庁。

お裁きの合間に閻魔大王がＴＶをご覧になっています。

閻魔「金銀パールプレゼントの鬼はいるか??」
金銀「はい、ここに。」
閻魔「金銀よ。できたら「金銀ちゃんいますよぉ」って言ってもいいからさ～～。」
金銀「大王様、無理になさいますと、セクハラになりますわよ。」
閻魔「そうだった。しかし閻魔のセクハラは誰が裁くんだろ??」
金銀「極楽の奉行所から取り調べに来るんとちゃいますか。それはともかく、どのような御用でしょうか???」
閻魔「スペインの方で起きた列車爆破事件の犯人に、禁固約４万３０００～約３万４０００年の判決が出たんだそうじゃ。」
金銀「日本では死刑がありますけど、スペインでは死刑・終身刑がありませんものね。」
閻魔「実際は禁固４０年程度になるそうだが、それでも刑務所ｏｒ拘置所の中で死んでしまうものじゃ。」
金銀「娑婆と地獄では時間の進み方が違いますものね。娑婆でいう４万年は地獄で４０年ぐらいですものね。」
閻魔「罪の重さで年数を足していくのも有りだろうけど、４万年というのは非常に長いものよのおう。」
金銀「でも天界・地獄界においてはあっという間ですものね。」

閻魔「ただ初代閻魔が現れたのは、初めて死んだ人間が初代閻魔になったというが、仏教ができたのが２５００年前なのだ。それ以前の話になるのか良くわからないのだ。」
金銀「仏教が成立する以前にも人間はいましたものね。」
閻魔「いわゆる原人といわれた生き物であったころから、地獄はあったんだろうか・・・・。」
金銀「で、今日の落ちは？？？」
閻魔「どことなく地下鉄漫才のようになってしまった。」
金銀「わからない人のほうが多いかもしれませんわよ。」
閻魔「また寝られなくなるではないか（をいをい）。」

第１２話　作品のカテゴリー編

ここは地獄の閻魔庁・・・ってこればっかしやがな。

今日も今日とて閻魔大王はお仕事・・・。過労死せえへんのかなぁ（地獄の場合は過労生きか）。

今回は赤鬼が大王の前に来ました。

赤鬼「大王様、わからへんことがおますねんけど。」

閻魔「どうした赤鬼。知るは一時の恥、知らぬは一生の恥というではないか。遠慮なく申せ。」

赤鬼「この小説が『小説家になろう』にＵＰされてからですねんけど。」

閻魔「ｍｉｘｉほど沢山とまでは行かないが、それでも公開されてから3桁の読者様が居られる。実にありがたいことではないか。しかも『ぼくはぱぐ』と『ボクはねこ』よりもアクセス数は上回っておる。」

赤鬼「それはよろしいねんけどな。『小説家になろう』でのカテゴリーが“霊　妖怪　魔王　コメディ　ドラゴン　モンスター　現代（モダン）　霊界／地獄／天国”ってなってますねんで。」

閻魔「そういえばそうじゃな。作者の虎波みなこ★彡が日刊ゲンダイしか読まない・・・もとえ現代しかかかないゆえに現代というカテゴリーなのだろう。」

赤鬼「どこがモダンですねん??」

閻魔「虎波みなこ★彡はモダン焼きを焼くのが得意とのことじゃが。」

赤鬼「（どて！！！）」

閻魔「霊は亡者共のことであるな。霊界／地獄／天国は霊界はともかく地獄であることは間違いない。直接は書いていないが、亡者の行き先として極楽を書いておるので差し支えなかろう。」

赤鬼「まあよろしいわ。けど妖怪っておりまっか??あれは娑婆のものでっせ。」
閻魔「左様。ハレ＊＊学＊とか書いている漫画家のアニメ作品には、妖怪の管轄が地獄になっておるの。しかし、娑婆で生きてなんぼのものであって、ぬらりひょんにすべてを任せておる。『ゲ＊ゲの鬼＊郎』では日本の悪い妖怪の総大将という役どころじゃからのう、他のさまざまな妖怪と組んで悪事を働いているようじゃ。まあ妖怪どもも年季が来れば、地獄へ亡者としてたどりつくわけじゃがの。」
赤鬼「まあ、これもよろしいわ。モンスターで誰ですのん??」
閻魔「そりゃ御主等鬼どものことだろう。」
赤鬼「こりゃ失礼やで、確かに筋肉隆々かもしれんけど、わたしら地獄の労働者でっせ。それをつかまえてモンスターとはエゲつない書き方でっせ。」
閻魔「しかし、今怒っているお主の顔は、やはりモンスター並みだが」
赤鬼「ほっといて。給料が安くて美容整形がうけられへんねんから。ドラゴンですけど、地獄にいまへんで。」
閻魔「御主は知らんかもしれんな。龍は虎波みなこ★彡の近所の焼肉屋・・・ではなく東洋においては縁起のいい神の使いなのじゃ。十二支のなかでも唯一空想の動物じゃからのう。時々極楽からの使いの龍が来ているではないか。」
赤鬼「ほな、魔王ってどなただす??」
閻魔「そりゃワシじゃ。」
赤鬼「じぶんだけエエ役どころですやん。で、今回のオチはどないしますねん。」
閻魔「ここまで漫才したら、コメディになっているであろう。」
赤鬼「ええかげんにしなさい。」

第１２話　作品のカテゴリー編（後書き）

今回は『小説家になろう』用に書き下ろしました。

第１３話　小林正編

日教組に加入　過去最低を更新。
ということがあったようですが、すべて小林正が悪い・・・・。
てなわけで、ここは地獄の閻魔庁・・・って何回目かいな。

いつもどおり閻魔大王のお裁きでございます。

閻魔「小林正よ表をあげい！！！」
小林「・・・・？？」
赤鬼「閻魔大王の御前である、表をあげい！！！！」
小林「あの～～」
閻魔「お主は教職員の身にありながら、自らの担任するクラスのいじめ・暴力・非行をほったからしにして、自らの顕示欲のみに執着するだけでなく、神奈川県教祖・日教組を弱体化させ、職能組合・互助組合化させた咎は許されんものである。」
小林「なんで、それがいかんとですか？？」
閻魔「黙れ。それが今の格差社会の原因なのだ。ましてや新興宗教の幹部であり某警視も貴様の教え子であると聞く。」
小林「ごーまんして悪かとですか？？」
閻魔「さらに貴様は、８９年参議院選挙で健全な政権交代ができる民の意思に反して、右傾化にのみひた走り堕落の一途を突っ走った。これは有権者に対する裏切り許すことはできん。よってこの者を八熱八寒フルコースの責めじゃ！！！。者ども、コヤツをひったてい！！！」

ってことで赤鬼・青鬼に引っ張られていきました。

閻魔「さてと。ん??金銀パールの鬼いかがした??なに、小林正と間違えて小林よしのりを召喚してしまっただと。まあ、似たようなものだからかまわないだろう。」
鬼一同「（どてっ！！！）」
閻魔「しかし『作る会』のメンバーが地獄に来た場合は、すべて地獄の責めじゃ。なにしろ神話ばっかし書いて、われらが地獄のことを全然かいていないではないか。いうとくけど黄泉の国＝地獄ではないのだぞ。」

第１４話　みなごろし編

ここは地獄の閻魔庁～～～、新年だろうと閻魔庁は閻魔庁でございますぅ～～～～。

例によって、閻魔大王が執務室にて調べ物・・・・。

閻魔「金銀、金銀パールの鬼はおらぬか？？？」

金銀パールの鬼が登場。

金銀「大王様あけましておめでとうございます～～。」
閻魔「そのほうも、正月は忙しかったであろう。亭主の黄色鬼はいかがであるか？？？」
金銀「大王様申し上げます。」
閻魔「なんじゃ？？申して見よ。」
金銀「もうちょっと黄色鬼の賃金をＵＰしていただけません？？」
閻魔「うむ、それは２月４日以降に申せ。」
金銀「どうしですかぁ？？」
閻魔「やはり賃金ベースアップは春闘にて勝ち取らないといかん。よって節分を過ぎないと賃金のＵＰはできん。」
金銀「（どてっ！！！）大王様そもそもの御用事は？？」
閻魔「申し送れた。今日東京のほうで通り魔事件があったとのことだ。
犯人の高校生は『みなごろしにしてやる』って犯行に及んだようだが。刃物では皆殺しにはできないんだがなぁ。」
金銀「そうですね。刃物では２桁斬れたらすごいことになりますものね。そこまで斬れるのはいくら剣の達人でも無理ですわね。」
閻魔「左様。あくまで剣は護身用に突破する武器なのだ。ましてや

包丁では、あくまで食材を切るためでであって、人を切る刺すのためには作っていないからのう。」
金銀「でも、九州電力の原子力発電所でテロを起こせば、日本の２／３の人口は死んでしまいますけどね。」
闇魔「左様、はなわの故郷の佐賀県にあるらしいな。佐賀県だから九州電力も設置しているんだろうけど。そもそも関西電力では二酸化炭素を出さない発電方式とＣＭで言っているが、放射能はしっかりでているしのう。」
金銀「そうですわね。柏崎原発も未だに壊れていないのが不思議ですよね。」
闇魔「左様。本当に安全なら皇居東御苑に作るがよろし。間違いなく電力消費地に近くて送電時のロスも少ないではないか。」
金銀「東御苑じゃなくても、東京湾の埋立地に作ってもいいわけですけど、作らないのが電力会社の負い目なんでしょうね。」
闇魔「金銀よ。地球全滅の日のために、三途の川に建設中の橋の建設はいかがなものか？？」
金銀「まだまだ完成しそうにありません。工事し始めたところですよ。」
闇魔「でも今の情勢では、亡者が多数三途の川を越える可能性があるのだが。常に世界は８月８日だからのう。」

第１４話　みなごろし編（後書き）

本当は金銀パールプレゼントの鬼の亭主は紫鬼だったんですが、途中で抗争が起きたわけでも高僧がお経をあげたわけでもなく、ましてや公葬されたわけでもなくて、構想が変わって急遽変更しました。ただ黄鬼だと読みにくいので黄色鬼にしてしまいました。

第１５話　死因編

ここは地獄の閻魔庁・・・。まあ今回も閻魔大王に登場していただかないと話が進まないので、マンネリがどうした！！ってことで閻魔庁でのお話にさせていただきます。

金銀パールプレゼントの鬼が、閻魔大王の執務室にやってきました。

金銀「金銀パールプレゼントの鬼入ります。」

閻魔「おお、金銀か。今日の用はいかがいたした??」

金銀「香港の新聞によれば、ブルースリー氏の死因に新見解が出たそうです。もう召されて３５年も経つんですね。」

閻魔「おお、ブルースリーか。今は地獄大学体育学部で武道の教授をしておるの。本来なら極楽にいけたのだか、我々が引き止めて地獄で教鞭をとることになって３５年もたつのか。」

金銀「御意。でも３５年経って死因の新見解もあるものですよね。」

閻魔「左様、大体人が死ぬときは心不全が死因だが、心不全に至るプロセスがどうだったのかは、ハッキリする場合はハッキリするし、そうでない場合は病因を突き止めるために解剖しても「・・・と思われる」だからのう。本当の原因は亡者が棺桶の中に入れて、さらに墓場まで持っていくことになるようじゃ。」

金銀「人間の場合は死に対する恐怖がありますものね。死に対する恐怖をやわらげるために、あの世がありいの輪廻転生がありいのですものね。」

閻魔「左様、犬とか猫には死の概念がないからのう。飼い猫が死体を飼い主に見せない・・・というのも、出かけた先で動けなくなって死んでしまうからなのだが。」

金銀「初代の大王様は初めて死んだ人間だと地獄史の教科書に乗っ

ていますが、初代の大王様の死因はなんだったんでしょう??」
閻魔「それがわからんのじゃ。なにせ相等古いことゆえ記録もあいまいじゃからなぁ。」
金銀「初代も生き返られてから相当の年数がたちますものね。そろそろ地獄にお戻りになるかもしれませんね。」
閻魔「でも初代を裁くときは・・・・逆にやりこめられそうじゃ。」

金銀「まあ、初代閻魔の記憶は輪廻転生の間に無くなっているはずですけどね。で、今回のオチは??」
閻魔「死因というものは本人も周りのものも、わかっているようでわからずに棺桶のなかに持ち込まれるようじゃな。」
金銀「全然オチになってませんよ。」
閻魔「何らかの死因で、地獄に堕ちてくるわけだから・・・オチにならないかなぁ。」
金銀「・・・・・・」

第１６話　愚かなるトップ

ここは地獄の閻魔庁・・・じゃなくて六道の辻。
六道の辻も新しくなってきたようで、いわゆる大型ディスプレイが辻に立っています。梅田のＨＥＰ　ＦＩＶＥのような感じなんでしゃろな。

で、飛び込んできたのが元時津風親方逮捕へ・・・というニュースなんですわ。

これを観て亡者の衆もわいわいガヤガヤ。

Ａ「元の時津風はまだ逮捕されてへんかってんな。」
Ｂ「今更逮捕って、遅すぎるがな。幾らでも証拠隠滅&逃亡できるがな。」
Ｃ「こんなのはまだ氷山の一角でっしゃろ。」
Ａ「そういえばそうかもしれまへんな。」
Ｃ「元の時津風は逃亡した力士を無理やり連れ戻しましたやろ。わたいも良く似たことをしてましてん。」
Ｂ「おうちはどんな商売だんねん??」
Ｃ「心身障害者の作業所の理事長をしてましてん。作業所に通う頭数が減ってもうたら補助金も減らされますねんわ。だから頭数を減らすわけにいきまへんねん。」
Ａ「元時津風も相撲協会からの補助金が減るいうて、無理やり力士を連れ戻しよりましたな。」
Ｃ「補助金減らさんように、独立しそうな奴には恫喝したり、半年実績を残せとかいうて、出て行かれんようにしてますねんわ。」
Ｂ「で、おうちは何で地獄へ来なはったんや??」
Ｃ「トイレにはまって窒息死ですわ。うちとこの便所は汲み取り式

でしてん。これやったらはやく水洗便所にしとくべきやった。」

なおCのモデルは東大阪市に実在する作業所&グループホームの理事長なんです。手口も実際にCがやらかした行為なんです。

第17話　2008年の節分が終わりました編

ここは地獄の閻魔庁～～～～。

今日は地獄の大宴会。娑婆にいる鬼どももこの日だけは地獄に大集合。まあ言うたら神無月のようなものですわ。神無月に時々阪神タイガースが優勝しますけど、にもかかわらず神無月いうのもへんな呼び方ですわな。陰暦１０月の異名ですけど、八百万の神が出雲に集結して会議しはるらしいんですわ。だれも見たことおまへんねんけど。

それと同じ・・・でもおまへんが、娑婆には鬼が集まるとこがおまへんよってに、地獄にて大宴会ちゅうことで（ってをいをい）。そやさかい、今死んだら損でっせ。いつもより多く鬼がいますさかい。落語の「死ぬなら今」のさかさですわな。

宴会に先立ち閻魔大王の挨拶。

閻魔「諸君。日ごろの奮闘に対し大王として感謝申し上げる。かたぐるしい事は抜きにして、鬼が注目される節分も無事過ごすことができた。今日は無礼講で楽しもうではないか。」

赤鬼「まってましたがな。久しぶりのただ酒じゃ。」

青鬼「そや、最近小遣い減らされて、飲みにいかれへん。」

閻魔「・・・が、本当に無礼講で騒いでもいいが、乱闘＆器物損壊はしてはならぬ。いつぞやの無礼講での修理費がまだ払い終わっておらん。」

鬼一同「（どてっ！！）」

赤鬼「いつぞやのあれやな。」

青鬼「あんときはすごかったで、宴会場の天井がぬけてもうたがな。」

金銀「そら、修理費は高くつくわ。」

閻魔「それはともかく、皆の衆乾杯じゃ！！！」
鬼一同「乾杯！！！！！」
　といいましても、娑婆の宴会でのタンブラーを片手に乾杯ではおません。体格のいい鬼のことですから、どうみてもビールの樽やろって寸法のグラスはざら、大きな鬼に至ってはタンクローリー1台で一杯だったりします。さすがに銘酒「鬼ごろし」を飲む鬼はいまへんが。

金銀「大王様。浄玻璃（じょ～はり）の鏡の調子がおかしいようですが。」
閻魔「左様。昨年秋ごろから娑婆の西側の感度が悪くなっての。浄玻璃（じょ～はり）の鏡自体は問題ないのだが、だれぞ結界を張ったのか見通せなくなってしまった。千里眼ですら結界をやぶることができん。」
金銀「その間に困った出来事があったようですわね。」
閻魔「すべての悪を見通せる・・・っていわれへんがな。」
金銀「娑婆の鬼がこられましたわ。」
娑婆「ども、娑婆の鬼でおます。」
閻魔「そのまんまやがな。それはともかく節分では疲れたことであろう。よく頑張った。」
娑婆「今年も節分には沢山豆をぶつけられましたわ。でも今年はちょっとちゃいますねん。」
閻魔「というと？申せ。」
娑婆「集合住宅では後始末ができん・・・ちゅうことで、廊下&共同施設での豆まきができんとこが多くなりましてん。」
閻魔「せちがない世の中よのう。」
娑婆「わてらは鬼ですさかい、豆ぶつけられてなんぼですけどな。しかし今年は中国産の豆ぶつけよりますねん。あんまりええ気はしませんで。」
閻魔「たしかに食の安全は大事なことよのう。地獄の豆まきはいい

ぞ、豆は安心できる地獄産じゃ。逆に娑婆に輸出したいぐらいじゃ。」

娑婆「来るときに見させてもらいましたが、立派な畑ですなぁ。」

閻魔「豆まきをする面々もすごいぞよ。」

娑婆「だれがまきますの??」

閻魔「落花生を使って、ロッキード事件の関係者に撒かせておる。」

娑婆「あの〜〜、若い人にはわからないかも。」

第１８話　名古屋刑務所編

資生堂名古屋支店長、女性への恐喝未遂容疑で逮捕という事件があったそうです。
やはり実刑になるのかなぁ＞資生堂名古屋支店長。
というのも、刑務所で馬鹿にされまっせ。２０万円の恐喝では。

ちゅうこうとで、刑務所内での会話。

牢名主「お前はなんで入った??」
受刑者Ａ「人を一人殺しましてな・・・１５年ですわ。」
牢名主「今は一人ではなかなか死刑にならんのう。もっとも死刑になる奴はここやなくて拘置所やが。おいお前は??」
受刑者Ｂ「詐欺であげられましてん。１００億からいきましたでしょうか。」
牢名主「１００億とは景気ええのう。おい新入り。お前は何をやらかした?」
支店長「女性への恐喝未遂容疑です。」
牢名主「なんじゃそれは、いかほど恐喝してん??」
支店長「２０万です。」
牢名主「・・・・、たった２０万か??しょぼいのう??今から脱獄せえ。」
支店長「え!そらまたなんで??」
牢名主「そんなもん脱獄でもせなあかんで、そうでもないと刑務官に対して箔がつかんがな。」
支店長「なんでだす??」
牢名主「ここは鬼も泣き出す名古屋刑務所や。しょぼい受刑者は刑務官に殺されてまうねん。」

・・・・・・

場所が変わりまして、地獄の閻魔庁～～～。

今日も金銀パールの鬼と閻魔大王の会話。

金銀「大王様、娑婆の名古屋刑務所って鬼も泣き出すそうですって」

閻魔「そのようだな。名古屋刑務所で刑務官にやられた亡者もおった。　平成１３年（２００１年）１２月に刑務官が受刑者１名の尻に向け，散水栓を水利とした消防用ホースで放水したことによって傷害を負わせ死亡させたとする事件が発生。その他，翌平成１４年（２００２年）５月に腹部を革手錠で締め付けたことが原因だとする受刑者死亡事件、同年９月に受刑者が刑務官から革手錠を施用されたことが原因だとする負傷を負い，外部の病院に移送された事件が発生しておる。現職刑務官が特別公務員暴行陵虐罪で起訴されたのだが・・・。

２人の亡者は、刑務所に入るなりの悪業を行いしものとはいえ、あまりにも気の毒ゆえに極楽へ通してやった。」

金銀「鬼も泣き出す名古屋刑務所はないでしょ。」

閻魔「鬼を１匹刑務所にいれるだけで、娑婆の刑務所は潰れてしまうものぉ。それにだ・・・・。」

金銀「それに??なんですの??」

閻魔「地獄で仕置きする悪人は幾らきついことをしても死なん。なにせ既に亡者だからのう。たまに生き返ってしまうのもおるが。」

第１９話　パンダのリンリン編

悲しいことに東京都恩賜上野動物園のパンダのリンリンちゃんが天に召されてしまいました。仮に鳩山法務大臣が死んでもざまあみろですが（十分死刑執行できるだけの犯罪者だが）、パンダのリンリンちゃんには心からお悔やみ申し上げます。

さて、ここは地獄の閻魔帳・・・じゃない閻魔庁だっちゅうに。

閻魔大王が秘書の金銀パールプレゼントの鬼を呼び出しております。

閻魔「金銀よ。たしかパンダの鬼もおったはずだが??」
金銀「え??いてましたかしら??」
閻魔「無理はないのう、お子達を受け入れる鬼としてパンダのような体格の鬼を、パンダカラーに改造したのじゃ。」
金銀「まあ、お子達部門ではさほど閻魔大王の耳に入るような事件もありませんものね」
閻魔「さよう、お子達の領域を外れたのが悪さをして困る。困ったものじゃ。」
金銀「で・・・今回のリンリンちゃんの昇天の件ですが。」
閻魔「狭い中で２２年も子供たちのために頑張ってくれた。４９日が来たら優先して極楽に通すように。」
金銀「でも、娑婆のパンダが減って、お子達もさみしいことでしょうね。」
閻魔「うむ、かって昔の閻魔の代には、地球上あちこちにパンダがいたと聞く。地球の環境がいつの間にか変化して、中国だけにしかいなくなったらしいのだが。」
金銀「次のパンダを中国政府に要請しているらしいですけど。」

閻魔「しかし、中国にとっては外交カードになっているのじゃ＞パンダ。欲しければいうことを聞け・・・とでもいいたいのだろうか??」
金銀「それはともかく、代わりのパンダをなんとかしてあげないと。」
閻魔「そうじゃ、山田パンダがいるではないか。あやつを召喚しよう。」
金銀「そんなことしたら、フォークファンから苦情がきますわ。」
閻魔「おお、娑婆でパンダを名乗っていた芸人が若くして地獄に来ておる。体格もパンダにておるし、実にふさわしい転生ではないか。」
金銀「それもだめなら??」
閻魔「仕方ないので、大阪府大東市の歩くパンダである虎波男女子を召喚するか??」

数日後、どこかの動物園にてパンダの赤ちゃんが生まれました。なぜかおんぎゃ～～と鳴き声をだした・・・ではなく、日本語しかも大阪弁で「怒りないな・・・」が第一声だったとか。

第２０話　死に神法務大臣

死刑執行の件数をめぐり、朝日新聞夕刊１面のコラム「素粒子」（１８日）が、鳩山法相を「死に神」と表現したんやそうです。たしかに少なくはないんですけどねぇ。

・・・と死刑執行を沢山すると法務大臣は死に神という称号があってもいいかもね。もっともサッカー選手じゃないビスマルク氏が「現在の大問題（ドイツ統一）は、演説や多数決ではなく、鉄（大砲）と血（兵隊）によってこそ解決される」なんて演説をしたもんだから、「鉄血宰相」って呼ばれるようになりましたけど、それに比べりゃ小さいような気がしますね。

てなわけで、ここは地獄の閻魔庁。

例の如く閻魔大王の秘書の女鬼である金銀パールプレゼントの鬼が、閻魔大王の執務室に入ってきました。

金銀「大王様、失礼しま・・・相当お疲れのようですが。」

閻魔「左様。今度娑婆で死刑になった宮崎勤という亡者の件で連日の十王の会議じゃ。浄玻璃（じょ～はり）の鏡で見ててもこいつはどうなっているのかわからん。他の王も困っておった。」

金銀「まあおしぼりでお顔を拭いて。死に神さんがお出でになりました。」

閻魔「おお、わしも奴に話したかったところじゃ。通せ。」

死神「閻魔大王さま、今日は結構なお顔色で」

閻魔「そんなことあるかい、会議が続いてお疲れモードじゃ。お主こそアロハシャツでいかがした??」

死神「いや～～、年がら年中黒を来ているのもなんですさかい、明るく地獄にお越しいただけるように、部下の死に神どもにも無礼講

にさせてますねんわ。いわゆる省エネルック。」
閻魔「まあ黒ければいいわけじゃないものよ。お主らは亡者を迎えに行く大事な役目、明るく死もええが適当なところでおいておけよ。」
死神「さて娑婆で鳩山とかいう法務大臣が「死に神」や言われてますねん。あんないいかげんなオッサンでは死に神は通用しまへんで。」
閻魔「そうよのう。災害現場など娑婆の人間どもが必死に救出する前に、亡者を迎えにいくこともあるよぉ。陸上自衛隊の空挺部隊よりレベルが高いかもしれんな。」
死神「そうでっしゃろ。鳩山みたいなオッサンを「死に神」呼ばわりはわたいらに対する侮辱でっせ。鳩山を見とったらしみたれたことしか目につきまへん。死に神やのうて「しみがみ」でっせ。」
閻魔「紙は染みてもうたら使いにくいな。」
死神「で、大王様。わたいらは死に神や思うんですけど、表記では死神になりますわな。どっちが正しいんでっしゃろ??」
閻魔「“に”の文字を入れるのが正当だわな。まあ漢字で死神のほうが威厳を感じんか?」
死神「大王様、しゃれでっか??」
閻魔「それと1文字省略しても省エネになるであろう。」
死神「えらくサブなってきましたわ。薄着のせいでっしゃろか。」
閻魔「原油が高くて、地獄も省エネせなやっとられんのじゃ。」

第２１話　死神編というより『イキガミ』のこと

なんでも映画『イキガミ』が星新一さんの作品『生活維持省』にそっくりだということで一騒動起きていますが、それとは関係あるのかよ～～わからん地獄のお話でございます。

ここは地獄の閻魔庁・・・って、ホンマは某有名アメリカ製アニメのような口調で読む設定ですねんけど、この作品での地獄はさほど怖い場所でもない・・・みたいですわ。

主人公（？）の閻魔大王が相変わらず書類調べ・・・そこへ秘書の金銀パールプレゼントの鬼が入ってきました。閻魔大王って恰幅の良いいわゆるメタボな体格やと思うでしょ。それがガリガリの背の低い男ですねん。なぜか野球だけは上手いらしいですが（をいをい）。

秘書の金銀パールちゃんがふくよかなので、大阪の借金の多い夫婦漫才コンビのような雰囲気やったりします。

閻魔大王も熱心に書類調べ・・・と思ったら、どうやら居眠りのようです。

金銀「大王様・・やだ寝てはりますわ」

閻魔「ムニャムニャ」

金銀「大王様、起きて！！！お仕事ですよぉ」

閻魔「むにゃ～～、お目覚めのキス！！」

金銀パールちゃんは呪文を唱えた。閻魔に電撃！！１０００ポイントのダメージ（をいをい）。

閻魔「おおおお、なあ金銀よ、もう少しマシな起こし方はないのか？？お～～痛～～～」

金銀「大王様とはいえ、セクハラはいけませんわ。」
閻魔「うむ、地獄の責めよりセクハラはいかん。しかし久しぶりに登場するようなんだが。」
金銀「作者の虎波男女子★彡が、まともにアマチュア無線を再開したからしいですわ。今度は大阪市浪速区の西方寺の閻魔堂の前から、路上ライブやなくて路上ペディションをやるって言うてますわ。地獄の一歩手前やからだそうです。」
閻魔「ほう地獄の一歩手前とは、エエ根性した奴やのぉ。他にも地獄の入り口とされた場所はあるのだが」

と、ようわからん会話をしている最中に、死神が飛び込んできました。
死神「大王様、えらいことでっせ！！！！」。
閻魔「死神よいかがいたした？？？というよりなんじゃその格好は？？」
死神「台風のおかげで洗濯物がずぶ濡れになってもうて、着るものがおまへんねん。かかぁのふんどしだけ残っていたんで、これもふんどしのうちやさかいとりあえず行っておいで・・・・ちゅうことで家からきましてん。」
金銀「あら、死神さん。それってパンドルショーツですやん。」
死神「金銀ちゃん分かる？？うちのかかあが新しい物すきですねんわ。これやったら大王様の前に出ても恥ずかしないちゅうんですわ。」
閻魔「しかし涼しそうだなぁ。でもその柄は可愛すぎるではないか？？金銀もパンドルショーツとやらを履くのか」
金銀「やだ～～、大王様」・・・金銀は閻魔に電撃攻撃！！２０００ポイントのダメージ。
閻魔「大概にしてくれんと、ワシ感電して大火傷するがな」

・・・・と間抜けな会話が続きまして。

死神「今、娑婆の世間様では『イキガミ』ちゅう映画が流行っているらしいんですわ。わしらもちゃんと輪廻が続くように、適当なところで地獄に連れてきてますねんけど・・・私らの仕事では足りませんのやろか??」
金銀「へ～～『イキガミ』やて。でも死神の反対というわけやないみたいやね。」
閻魔「うむ、面白そう・・・というと不謹慎かのう。死に対する恐怖に面したときの人間のあり方を作品にしたわけだな。しかし人間がそのように死を早めることが・・・つまり人の命を奪うことができるかについても考えることができるな。」
死神「そうでしゃろ。わたいらがそれ相応の時期にお迎えして、しこりが残らへんのですわ。娑婆の人間にしてもらう仕事ではおまへんで。」
閻魔「それはいいが、その格好で人間のところへ向かうのか??」
死神「へえ、これしか着るもんがおまへんさかい。なにせ王水の雨では服は全部わやになってまいましたわ。」
閻魔「服をあつらえるまで、しばらく代わりの者を任務に就けようぞ。」
死神「誰を任務につけますんや??」
閻魔「天本英世はまだ地獄にいるはずじゃ、奴を死神の代行にする。」
死神「わしも昔死神博士として、ショッカーという妖怪軍団を率いたおった・・・と言ってはりますけどなぁ」。
金銀「これって、仮面ライダーを知らない世代には分からないと思いますが。」
閻魔「やむを得ん。我々でくじを作って添乗員なしでの地獄ツアーにせねばいかん」
金銀「くじって、どんなくじですか??」
閻魔「3周年の公判を担当している五道転輪王に頼もうぞ。3周年

の公判まで揉める亡者も少ないから、奴は相当暇じゃ。」
死神「で、どうやって決めますねん？？？」
閻魔「五道転輪王の本地仏は阿弥陀如来。よってあみだくじじゃ」
死神・金銀「（どてっ！！！！）」

第２２話　全興寺編

大阪は平野区に全興寺というお寺があって、地獄を再現した地獄堂ちゅうのがあるそうですわ。
これだけ怖い地獄堂ってトラウマになるとちゃうか・・・と思うんやけど、まあ子供が親の言うことを聞かせる・・・という目的で作ったんとちゃうらしいんですが。

てなわけで、ここは地獄の閻魔庁～～～。

今日は閻魔大王の執務室に赤鬼が飛び込んできました。

赤鬼「大王様～～大変でございます・・・って大王様は？？？」
閻魔大王は席をはずしているようです。お留守番で金銀パールの鬼がいます。
金銀「あら、赤鬼さん。大王様は今お出かけなのよね。もうそろそろ帰ってくると思うわ。」
・・・としているうちに閻魔大王が帰ってきました。
閻魔「お～～、今日はよく出た出た♪お、赤鬼ではないか。」
赤鬼「出た・・・って、糞がぎょうさんでましたんか？？」
閻魔「タワケ！！糞ではない、パチンコの玉が沢山でたのじゃ。」
金銀「大王様、勤務中ですよぉ。」
閻魔「しまった！！、ごめんちゃい。」
金銀「今週３回目ですよぉ。もう！！」
赤鬼「しかし、大王様の恰好で目立ちまへんか？？」
閻魔「もちろん変装するのだ。亡者に化ければ大手を振って地獄の中を行き来自由じゃ。」
金銀「でも赤鬼さんって体格いいから、大王様と並ぶと漫才のどんきほ～てみたいですね。」

赤鬼「今どんきほ～て言うても、ディスカウントショップを連想するんとちゃいますか??」
閻魔「で、赤鬼。用があったのではないか??」
赤鬼「娑婆に地獄があるらしいんですわ」

閻魔「ほう、大阪府大阪市平野区の全興寺とな。浄玻璃の鏡で見てみようぞ。なんじゃこのメタボな怖い顔のオッサンは??」
赤鬼「それが大王様やそうですわ。」
閻魔「わしゃ働きすぎで痩せているんやけどなぁ。金銀どっちが男前じゃ??」
金銀「大王様のほうが愛嬌があって優しいですわ。」
閻魔「愛嬌か・・・。鬼どももものすごく怖く作ってあるな。」
赤鬼「わたいらも働いているときはこんな顔でっしゃろか??」
金銀「鬼の皆さんって多少不細工な顔でもやさしい鬼さんやのにね。」
赤鬼「不細工かいな・・・。鬼婆もいるけど、これって金銀ちゃんなんやろか??」
金銀「あたしあんな凄まじいことせえへんよ。」
閻魔「悪いことをしないことと、自分の命を大事にすることを子供たちに教えるために建てたらしいな。」

金銀「極悪非道な人はそれなりに反省していただくけど、転生のための時間を過ごしてもらう場所なのにね＞地獄は。」
赤鬼「そんなもん地獄の現実を知ってもうたら、娑婆の人間はみんな地獄へきてまうがな。娑婆では怖い場所ちゅうことにしといてもらわな。」
閻魔「しかし困ったことだ」
赤鬼・金銀「どないしはったんです??」
閻魔「あんなに怖いものを見てしまったら、今夜トイレに行けなくなるではないか。」

赤鬼・金銀「（どてっ！！！！）」

第２３話　証拠調べ編

舞鶴少女殺害事件　家宅捜索を見合わせ・・・・ということが２００８年１１月末にありました。　なんでも弁護側からの準抗告申請が出たからだそうですが、実に珍しいこともあるものですねぇ。なにせ１００％犯罪者として検察・裁判所に送り出しますものね。そのためボロが出ては困るので、死人に口なし・・・ということで死刑制度維持なんて言っているんでしょうけど。

ここは地獄の閻魔庁・・・・。

浄玻璃の鏡の前で閻魔大王がいます。
そこへ金銀パールの鬼がやってきて、

金銀「あら大王様。朝から鏡をご覧になって～～～。」
閻魔「うむ、今日は朝から見ておる。」
金銀「そんなに変わる顔じゃないですわよ～～。」
閻魔「（どてっ！！）違うのだ。朝から証拠調べなのだ。」
金銀「あら、そうでしたか。」
閻魔「しかも最近寒くなって成仏する亡者も多い。よって仕事が増えてたまらんのじゃ。」
金銀「いわゆる証拠調べですね。」
閻魔「左様、娑婆では犯罪を犯す方も知能が発達してきたのか、娑婆の警察では迷宮入りが多くなっておる。だが浄玻璃の鏡の鏡を使えば全ての罪をお見通しなのじゃ。」
金銀「本当にお見通しなんですね。」
閻魔「左様。孫悟空ではないが、全てはお釈迦様の掌の上での出来事なのだ。ちゅうことはお釈迦様ってどんな体格やねんって言われるが、一応は物のたとえなんだがのう。」

金銀「でも罪状と証拠書類の保管も大変ですね。」
閻魔「うむ、娑婆の株券ではないが、地獄に置いても罪状・調書・証拠書類も電子化しているのじゃ。今は幾らでもキーボードを叩ける亡者も多いから、人手不足ということはないのじゃ。」
金銀「でも閻魔庁の建物はボロッちぃんですけど。」
閻魔「予算の都合というものがある。」
金銀「で、今回のオチは？？？」
閻魔「それも予算の都合というのもがある。」
金銀「（どてっ！！！）」

第２４話　佐藤栄作編

考えんでも一か月近く開いているんですね。
その間私がＵＰしなかっただけで、そこそこ書くことはあったんですけどね。
２００８年１２月２２日に、佐藤首相「核報復」要請、６５年訪米時の外交文書公開　・・・ということがありました。

てなわけで、ここは地獄の閻魔庁～～～。

閻魔大王の審判であります。
閻魔「赤鬼！佐藤栄作を連れてまいれ！！」

赤鬼と青鬼が佐藤栄作を連れに出かけました。
早いもので数分後に佐藤栄作が連れてこられました。

閻魔「佐藤栄作、面をあげい。かねてから非核３原則を否定する行動にもかかわらず、ノーベル平和賞を受賞しよって。受賞取り消しに相当する悪事今回の報道で明らかになった。よって仕置きをさらに強化するものとする。」
佐藤栄作「恐れながら申し上げます。なんのことか存じませんが。」
閻魔「なにをしらばっくれる。ちゃんと証拠はあがっておるわ。」
佐藤栄作「私はそのようなことはしておりませんが」
紫鬼「大王様申し上げます。その佐藤栄作は元総理大臣の佐藤栄作ではありません。」

紫鬼は閻魔庁における書記官の役目をする鬼です。赤鬼・青鬼に比べると小柄ではありますが、いわゆる事務については地獄一と言

われております。
閻魔「え”！！！左様であるか。」
紫鬼「はい、改めて本人確認しましたが、間違って召喚してしまいました。」
閻魔「あちゃ～～～（＾＾；。それはともかく佐藤栄作、手違いで驚かせててすまなかった。お詫びに極楽行のポイントを加算するゆえ許していただきたい。紫鬼、佐藤栄作のポイントを加算せよ。」
紫鬼「はい大王様。ではポイントカードにスタンプを・・・1、2、3・・・って、大王様ポイントカードが全部埋まりました。」
閻魔「ということは今すぐ極楽行きじゃ。では佐藤栄作を極楽へ案内せよ。」
佐藤栄作「極楽へ行けるからいいけど、本当に気をつけてくださいよ。」

総理大臣じゃない佐藤栄作は極楽へ行きました。

閻魔「ゴホン！！赤鬼、青鬼。本人確認を怠ってはいかん。」
赤鬼「大王様、そんなこと言うても多い苗字でっせ＞佐藤って。」
青鬼「佐藤栄作が総理大臣やったころ、東京だけで8人も佐藤栄作が電話帳に載ってましたで。」
閻魔「今度こそ佐藤栄作を連れてまいれ。」
赤鬼「この佐藤栄作やろか??」
閻魔「書類を見せよ。ん??これは九州朝日放送のお天気キャスター、気象予報士の佐藤栄作ではないか。まだ生きておって今日もＷｅｂｓｉｔｅを更新しておる。まだ地獄に引っ張ってきてはいかん。」
青鬼「ほな、これやろか??」
閻魔「お主も書類を見せよ。んん??前福島県知事の佐藤栄佐久ではないか、佐藤栄までしか合っておらん。こやつもまだ地獄に引っ

張ってきてはいかん。」
紫鬼「大王様申し上げます。」
閻魔「どうした紫鬼。申せ。」
紫鬼「佐藤栄作は極楽に向かっております。」
閻魔「さきほど佐藤栄作なら極楽へ送り出したではないか。」
紫鬼「いえ、元総理大臣の佐藤栄作です。善行を行っていることが判明しましたので極楽へ送っています。」
閻魔「んんん??そうだったか??」
紫鬼「佐藤栄作が鉄道省大阪鉄道局長だったころの１９４５年３月１５日の大阪大空襲の際、多くの市民が地下鉄に避難して難を逃れております。これは佐藤栄作が「空襲の際には地下鉄を運転して市民を救え。」と前もって指示していたからと言われているそうです。全ての市民とまではいきませんでしたが、かなり助かったのは善行であります。」
閻魔「そうじゃった。そのかわりお釈迦さまに頼んで蜘蛛の糸を垂らしてもらったのう。」
紫鬼「なお戸籍上の名前は“榮作”が正しいそうです。」
閻魔「なるほど。これはメモメモであるな。おや??金銀パールの鬼。いかがいたした???」
金銀「なんで今回は出番がないの??ぷんぷん!!」

第２５話　山崎正友氏（元創価学会顧問弁護士）編

山崎正友氏（元創価学会顧問弁護士）が死去というのが年を越えてから明らかになりました。
新年早々・・・でもないのか、冥土に旅たたれたのが１２月２９日。
昨年の押し詰まって役所はお休みの時期ですわね。
珍しく、ご遺族にお悔やみ申し上げます。

てなわけで、ここは地獄の閻魔庁～～～。

珍しく閻魔大王が遠くを眺めています。
そこへ、秘書役の金銀パールプレゼントの鬼がやってきました。

金銀「大王様！！」
閻魔「・・・・」
金銀「だいおうさま～～～～～！！」
閻魔「おお、何事じゃ。金銀であるか。ビックリしたぞ。」
金銀「前回はセリフ１行だけだし、今回は大王様がぼ～～としているところからですわよ。大きな声もでてしまいますぅ。」
閻魔「すまんすまん。娑婆の１２月２９日に元創価学会顧問弁護士である山崎正友が召されたらしい。そのことを思えばぼ～～～ともするわ。」
金銀「あら、どうしてですか？？」
閻魔「そりゃ顧問弁護士といえば、組織の長に成り代わって裁判所に出向くような重大な任務じゃ。しかし、宮本顕二元議長宅への盗聴事件を告発するという、組織を裏切ってまでも正しいことを貫いたわけじゃ。」
金銀「あら～～。」

閻魔「ただ、日本共産党は緒方国際局長（当時）の家に、官憲の手によって盗聴器が仕掛けられるという、いわゆるＩＴに疎い政党かもな。」
金銀「大王様はいかがなさるおつもりですか??」
閻魔「そうよのう、地獄に創価学会員がごろごろして、鬼共も創価学会員以外の亡者はおらぬものかと言っておる。告発したことは認めても、財務とかで創価学会員を苦しめた罪状は見逃すわけにいかん。」
金銀「でも大王様、あたしのセリフは前回の紫鬼ちゃんより少ないんですけど。」
閻魔「それじゃ、金銀パールプレゼントの鬼ワンマンショーでもするか??」
金銀「あら、本当???」
閻魔「と虎波男女子★彡が言って居る。」
金銀「そんなもん、失業中の虎波男女子★彡がアテにならないです。（ぽこ!!!）あら、痛い!!」

虎波男女子★彡「あたしを怒らせるんじゃない!!!!」

第２６話　復讐編

中３自殺　遺書に実名と「復讐」・・・という事件があったとのことです。

いつも通り、ここは地獄の閻魔庁～～～。

閻魔大王が珍しくぼ～～っとしています。

稲妻が閻魔大王を直撃。閻魔大王は１０００ポイントのダメージ・・・ってよく使われたパターンですが。

閻魔「お～～痛た～～～。この電撃は金銀パールプレゼントの鬼であるな。」

金銀「大王様、またもぼ～～っとしてましたわよ。お仕事中ですよ。」

閻魔「だからってしょっちゅう電撃を喰らっては、逆ＡＥＤになるではないか。心臓が止まるかと思ったぞ。」

金銀「今日も、ぼ～～っとするようなことがあったんですか？？」

閻魔「うむ、中学生が自殺するという案件があったのじゃ。しかも遺品整理中に見つかった遺書によれば、虐めを受けた加害者の実名を挙げて復讐をするというのじゃ。」

金銀「それはかわいそう」

閻魔「というより、復讐の讐の字は難しいのだが。間違えて別の意味にとられなかったものよのぉ。」

金銀「（どてっ！！）それが問題じゃないでしょ。電撃！！！」

閻魔は２０００ポイントのダメージ。

閻魔「あのな、わしゃ食パンじゃないぞよ。食パンもここまで黒こげになれば食べられないではないか。」

金銀「そういった問題じゃないでしょ。ぷんぷん！！」

閻魔「お主の憤りもしかり。命を奪うことに躊躇がないのかのぉ。追い詰めたとはいえ命を奪ったことには違いない。いくらお人好しの儂でもこれは許すわけにいかん。」
金銀「大王様が元に戻った。」
閻魔「力学・物理的な労災死亡者よりも、精神的に追い詰められての自殺で地獄に来た亡者も多い。親の命が安く扱われている今、子供が命の大切さに気がつくのか・・・、むしろ大阪府の橋下知事のように他人をけ落としてまでも競争に勝つ・・・と言い出す不逞の輩もいるしの。」
金銀「あの～～、オチが無いんですけど。」
閻魔「ちゃんとあるのだ。」
金銀「あら??」
閻魔「橋下を引きずり下ろしてやる・・・ってこの作品の作者が言っておる。」
金銀「オチになるんですか??」
閻魔「引きずり下ろすには落ちていただくから、オチだろう。」
金銀「今ひとつのオチですね。」

第27話　ＳＩＯ編

お向かいの運送会社のトラックなどの騒音が五月蠅いということで、何を血迷ったのか運送会社に塩を盛ったという和尚が出たというお話ですが・・・。

相変わらず、ここは地獄の閻魔庁～～～（くどいようだが某洋風アニメの口調で読んでいただきたい）。

閻魔大王が金銀パールプレゼントの鬼に例のごとく
閻魔「今回の表題であるが、なぜにＳＩＯなのだ??一酸化ケイ素の化学式がＳｉＯだが、ＩＳＯなら国際標準化機構（こくさいひょうじゅんかきこう、Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ　Ｏｒｇａｎｉｚａｔｉｏｎ　ｆｏｒ　Ｓｔａｎｄａｒｄｉｚａｔｉｏｎ）であるが??」
金銀「単純に塩と書きたくなかったんでしょ＞作者が。」
閻魔「ＳＯＩ　（Ｓｉｌｉｃｏｎ　ｏｎ　Ｉｎｓｕｌａｔｏｒ）なら、ＣＭＯＳ　ＬＳＩの高速性・低消費電力化を向上させる技術なんだそうだが。あまりにもややこしいのでそれなりに検索してもらえばよかろう。で、塩がどうしたのじゃ??」
金銀「大王様→に書いたとおりでございます。」
閻魔「ふむ、左様なことがあったのか・・・って通じるのが、吉本新喜劇のようなノリじゃのぉ」
金銀「（どてっ!!!）」
閻魔「これは坊さんかんざし買うを見たよりも破戒行為じゃのぉ。騒音に対する固執・・・実に煩悩が取れていないではないか。本来なら早期召還の上地獄に落とすべきであるが。」
金銀「でも無理です」
閻魔「何故じゃ??」

金銀「件の坊主はまだ元気そのもの、悪い奴ほど長生きではありませんが、これだけはしおがありません。」
閻魔「しょうがないでオチのつもりだな。本当は別のオチがあったのじゃ。」
金銀「あら？そうなんですか？？」
閻魔「でも、作者が忘れてしまったのであった。」
金銀「（どてっ！！！）」

第２８話　おくりびと編

直接納棺師の仕事ではありませんが、おくりびとのお仕事の一つのことでも書きましょう。

ここは地獄の閻魔庁～～～（って、洋風アニメ口調で読んでいただきたい）。

閻魔大王はというと浄玻璃の鏡を使って、亡者の行いをチェック・・・と思ったら、虎波男女子★彡（４６）のことを見ているようです。そこへ金銀パールプレゼントの鬼がやってきまして。

金銀「大王様、今日は何をご覧になっているんですか??」

閻魔「おう金銀か。今日はこの話の作者の虎波男女子★彡の行状を見ておるのだ。なんでも大型２種を取ったから、働ける場所って探したら冠婚葬祭関連のバス会社の面接を受けたらしい。」

金銀「納棺師ではないけどおくりびとのお仕事ですね。」

閻魔「２つの会社があって一つは霊柩車・寝台車も運転するらしいが、夜中でも呼び出しがあると言うことで、もう一つの会社を受ける・・・ということでハローワークに電話してもらったら、すぐにでも面接ということで翌日受けに行ったらしい。求人票には高槻の事業所で９～１８時の勤務って書いてあったのが、京都東山の事業所も掛け持ちで、ハンドルを握っている時間でなんぼという勤務時間だそうだ。変形勤務時間とは書いてあったけど。」

金銀「えらく求人票と違いますね。」

閻魔「夕方５時にならないと翌日の予定が分からない仕事だそうだ。それでもバスを運転できる仕事だから採用を待って・・・いたらしい。７～１０日程度で返事のはずが、一月以上立ってから不採用通知が届いたということだ。」

金銀「あらま～～。」

閻魔「別の仕事の内定をもらったらしいが、地獄に近い仕事らしい。」
金銀「虎波男女子★彡が地獄に来てしまったら、この話はどうなるんでしょうか??」
閻魔「地獄で執筆すればもっとリアルになるのだが、ただ娑婆に配信できなくなるしのう。というよりこの話はｍｉｘｉにての掲載は今回が最終回になるのじゃ。」
金銀「え～～～～～～！！！聞いてませんよぉ」
閻魔「なぜか作者の思うところらしい。」
金銀「困りますぅ。」
閻魔「どういうことであるか??」
金銀「私、金も銀もパールもプレゼントされていないんですが。プンプン！！」

第２８話　おくりびと編（後書き）

※そもそもＳＮＳのｍｉｘｉにてＵＰしていた地獄八景亡者の戯れ外伝ですが、小説家になろうより一足先に最終回を迎えました。

第２９話　金銀パールプレゼントの鬼と黄色の鬼のロンド

地獄百景亡者の戯れ外伝

ここは地獄の閻魔庁～～と思うでしょ。
今回は私こと虎波男女子★彡鐵女の家なんです。実は金銀パールプレゼントの鬼と亭主の黄鬼に来てもらいました。どこから入ってきたんでしょうね？？今までの絵巻物だと鬼と言えば、。巨大な身体なんですけどね。彼らは自由自在に体長を変えられるのか、身長１０ｃｍという・・・フィギィアのような寸法に身を変えてて目の前に現れたのです。

最終回ということでオールスター出演もある・・・と思ったけど、誰を出したものかわからなくなってしまいましたので、金銀ちゃんと今まで台詞がなかった黄鬼くんに来て貰いました。あ！黄色鬼でしたね。

金銀「金銀パールプレゼントの鬼です～～。」
黄色「初めまして、黄色鬼で～～す。」
金銀「ポヨヨ～～ン！！！」
黄色「って元キャラがモロばれやがな。」
金銀「１回ぐらいしてもええやん。」
黄色「まあ何回もしているのとちゃうしな・・・って今日は漫才とちゃうがな。」
金銀「今回は作者にインタビューなのでした。作者の虎波男女子★彡鐵女さんです～～～。」
虎波「どうでもええけど、どうやって地獄から来たん？？」
黄色「いうたら、空間のひずみですよ。」
金銀「だからってタイムトンネル・・・というよりも、ドアを開け

れば別のところ・・・って長寿アニメの道具のような感じですけどね。」
虎波「一応固有名詞は出していませんけどね。まあ1種のパラレルワールドになるのかねぇ。」
黄色「そう説明するほうが簡単ですわな。」
虎波「実は、物理も深いところまでは習わなかったので、意外な公式をコマーシャルフィルムで知ることになってしまったんだけどね。」
金銀「でも男女子さん。結構3人漫才も良いんじゃない。」
虎波「でも今は3人漫才も少ないものなぁ・・・って本来の目的はなあに？」
金銀「男女子さんへのインタビューでした。」
虎波「でも淫たびゅうではないからね。一応お子達にも読んでいただきたい作品のつもりなんですが。」
金銀・黄色「（どてっ！！）そんないい作品ではないんですけど。」
虎波「淫な部分もあるんだけど・・・しかしそこまで書かんでも話が成り立つんだからねぇ。それ以外は私の好みで作ってしまったんだけどねぇ。」
金銀「勝手と言えば、私の存在も勝手ですよね。」
虎波「まあ、あるファミコンゲームで存在した名前なんですけどね。」
黄色「あんまりオリジナリティがないですね。」
虎波「どうしても出さなあかんキャラもいるでしょ。閻魔大王とかね。」
金銀「一応地獄百景ですものねぇ。ある程度は固定キャラがありますものね。」
虎波「（フフフ、急に黄色から金銀に台詞を変えてやった。）どんな作品にも出さないと駄目なキャラがいますわいな。」
黄色「ではＦＡＱみたいな質問が３０００人余りの読者から、全然寄せられていません。」

虎波「（どてっ！！）」
金銀「それでもＦＡＱになりそうな質問をＵＰしちゃいました。」
虎波「はいどうぞ何でも。全然儲かってはいませんよ～だ。」
黄色「儲かっていないことは重々知っております。それ以外のことでの質問ということで。」

Ｑ「どうして金銀の相方が紫鬼から黄色になったのですか？」
Ａ「紫鬼というキャラを別に出したら以前の設定がヤバくなったので変えました。」

虎波「紫鬼を女性キャラにしたんですが・・・名前がダブってしまったことに気がついてしまったので、急遽一遍出した物を変更してしまいました。」
黄色「でも鬼の数って色の数と同じちゃいまっせ。色が重なってもええんちゃいますの？」
虎波「一応役職的なものですけどねぇ。」
金銀「紫鬼のキャラって１回しか出てないので良くわからないんですが。」
虎波「某放送局の女性アナウンサーのような感じかなぁ。」
黄色「茶屋町の？・・・って岡山ちゃいますけどな。」
虎波「まあよく見ていますからねぇ＞ＭＢＳ毎日放送。ハングルが得意な女性アナウンサーをイメージしていますが（ほぼ名指しですやん）。」
金銀「ということは以前放送された番組の出演者＝キャストと同じですやん。」
虎波「その番組もよく見ていました。」
黄色「へ～、そうやったんか。」
金銀「・・・・・・」
黄色「どないしてん？」
金銀「なんか複雑。」

虎波「次回作において複雑でないことも書くからね。」
黄色「へ？次回作もおますんか？？」
虎波「『小説家になろう』の統計の都合で、３０回で打ち止めにしたけど、いくらでも続けられるからね。」
金銀「どんな話にするんですか？？」
虎波「闇魔大王より金銀ちゃんを主人公にしてみたいですね。」
金銀「へ～ぇ、どんな話になるんだろう？？」
虎波「但し、コメディ路線は変えないけどね。」
金銀「何か悪い予感。」
虎波「出来ればラブコメにしたいですね。」
金銀「わくわくしちゃいます。」
黄色「でも男女子さん、ラブコメって読んだことあるんですかぁ？」
虎波「全然。これから読むのだ（キッパリ）。」
金銀・黄色「（ガクッ！！）。」
金銀「大丈夫かしら？」
黄色「今回もこの話（地獄百景亡者の戯れ外伝）かて、大丈夫でないのに書きはったものなぁ。」
金銀「なるようになるんちゃう。」
虎波「そんなものでしょうね。」
金銀・黄色「あんたが言うな！！」
虎波「すみませ～～ん（＾＾ゞ。」

Q「黄色鬼のネーミングの由来は何ですか」
A「戦隊物の黄色キャラのイメージからです。」

黄色「ということはカレーが好きなキャラですか？」
虎波「う～～ん少しはあるんだけど、必ずしもそうでもないですよ。ただ工作機械の黄色もあるんですよ。力強いキャラのイメージなんですよ。」
金銀「へ～～そんな見方もあるんですよね。うちでは粗大ゴミです

わよ＞黄色。」
黄色「亭主に対して粗大ゴミはないやろ。」

Q「金銀と黄色の子供は？」
A「考えていませんでした。」

虎波「次回作では二人が結びつく以前の話なので、そこまで書くことができるかどうか・・・どうしてもとなると、産休にはサファイアの鬼に仕事を任すことになりそうですねぇ。」
黄色「鬼も十月十日ですかいな？？」
虎波「まあ地獄の十月十日は、必ずしも人間界の十月十日と一致はしないと思うんですが、同じ時間で生きているつもりでも、蜻蛉のように生きている時間が短い生き物もいますけどね。」
金銀「わくわく、かわいい子ができるかなぁ。」

Q「どうして閻魔大王と鬼って大柄なんですか」
A「大柄でなくても良いと思いますが、ただ今までの画が大きく書くことによって、恐怖感を与えるという意味があるんでしょうけどね。ウルトラマン解体序説だったかな。地球上に現存しうる生き物だとしたら、下半身をもっと大きくしないと立つことが出来ないんですよね。それでなければカルシウムでない元素で骨格ができていることになりますが。高い鬼でも２ｍ以内だと思います＞身長。黄色鬼はモデルが細いので、そのような感じに書いているつもりですが。」

黄色「モデルって？？」
虎波「ぽよよ～～んの相方の人のイメージですけど。」
金銀「あら偉く細身だったのね。」

Q「余り具体的な責め苦はありませんが。」

A「他の人が書いているから具体的に書かなくて良いでしょう。むしろ転生するまでの時間を過ごす場所だと考えています。西岸良平先生の『鎌倉ものがたり』のイメージで書いています。」

Q「地獄ってどこにあるんですか」
A「どうしても・・・ということになればパラレルワールドだと思います。誰ぞやが言う地続きだとは思いにくいんですが、この世だけの一元だという説もあるんですが、パラレルワールドで存在している・・・というのもいいでしょう。行き来するのは命がけ（？）ですけどね。」

というわけで、あまりいいＦＡＱでもないんですが、読んでいただきありがとうございました。また次回作でお会いしましょう。

第２９話　金銀パールプレゼントの鬼と黄色の鬼のロンド（後書き）

ようやく終わりました。本当はもっと長く書きたかったんですが、話題も古くなったりと着いていけなくなってしまったこともあり、ここらへんで一段落ということで終わることにします。入院したりして端末に向えない時期もあったんですが、ここで終わることができました。またＰＡＲＴ－２も書いていくことにしますね。読んでいただいた皆さん、本当にありがとうございました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0854d/

地獄八景亡者の戯れ外伝

2010年10月13日19時56分発行